

今回のテーマは温泉。

温泉といえば露天風呂。

露天風呂といえば混浴よく… でなくて月見酒。

そんな連想で描いてみました。

なお未成年の飲酒は禁止されて

おりますのでどんなに若く見えても

二十歳以上なのですよ？ よ？

それにつけても温泉に行きたい。
とか毎年言いながら時が過ぎて
いっているので今年もそうだと
思います。

温泉いいですね～。
去年は行けなかったので
今年こそは行きたい。
そしてカニをたらふく
食べてみたい。
夢。

今回のテーマは「温泉」です。

温泉といえばバスタオル娘さん。
最近は混浴では水着OKな所も
あると聞きますが、せっかくだから
バスタオル（できれば白）巻きで
入っていただきたいと思います！

今回のテーマは「みみっ娘」です。
てことで、イヌみみ、ネコみみ、キツネミミ…
とありきたりなものを描くよりも
ここはいっそ「牛ミニ」とか新しいんじゃね？
と思ったんですが、むりりんから
「それはなんていうかみみっ娘じゃないんじゃ…」
という最もなツッコミがあり、
結局ネコミミ娘と相成りました。

つり目ねこみみ娘スキーなのですが
先月号でもつり目を描いてしまった
(つり目スキーナもんでつい)ので
今回はたれ目ねこ娘さんです。
お金持ちの家で飼われてるおっとり猫
みたいな感じで。

みみっ娘の良さは耳だけでなく
しっぽにもありますよね！
じっぽをさわさわしたら
嫌がったりすぐったがったり
してもらいたい。とか妄想してみたり。

今回のテーマはみみっ娘さん。
犬にしようか猫にしようか
うさぎにしようか迷ったのですが
最終的にはわん娘さんに。
今年の干支だし主役だし！
いろんなところで犬が
見られて犬好きとしては
とてもありがたい。
猫年とかもあったらいいのに！

ということで柴わん娘さんと
トイプー娘さん。
犬がじゃれあってる姿は
とても可愛らしいよね。
じゃれあってる娘さんも
可愛いらしいよね！
とかそんな気持ち。

この状況は……？



沙々羅と夏希は楽しそうに笑いながら鍋をつつき合っている。
「……な、何だかみんな変だよ？」
その様子がどこか恐ろしげで、真姫奈は自然と後退り、鍋から距離を取った。

そして、その判断が正しかったと思うのは——さほど時間はからなかつた。

「……おお……」
鍋を食べ終える前から始まつた狂騒を目の当たりにし、真姫奈はそんな声を漏らした。
「ほらほら、ここがええのんか？ ここか？ ここがええのんか？」
「あつ、ああ……だ、ダメだよ、みなせちゃん……そ、そんなところ……あんっ！」
「ん、んん……胸、揉んじやダメ……敏感なところ、触らないで……」
「こんなに硬くしてはいけないですか？ 好きなんじょ？ ほら、そんなに身体をピクピクさせちゃってえ」
「あつ、んつ、んん……ふあつ、ああ……コリコリするのはダメ……んつ、んん……」「ふあう、んつ、んん……ダメです……もう、身体に力が入らないです……」
みなせが手を須美と夏希の身体に伸ばし、敏感な所をくすぐるように刺激する。
そして、その膝の上には、すでに快楽に酔いしれた沙々羅がぐつたりとしていた。
「しゅ、修羅場ってこういうことをいうのかなあ……兄様、怖いよ、なんだかとっても怖いよう……」
壁際からその狂乱を見つめる沙々羅に、ふとみなせの視線が向けられる。
「ほら、真姫奈ちゃんもそんな所にいないで……あたしが可愛がってあげますから、ふふふ」
「え、えーっと……まきなは遠慮しておこうかなあ……」
「そんなこと言わずに……さあ」
「あっ……ダメ、行っちゃ嫌……」
「ん、行かせない」
真姫奈の方に寄ろうとしたみなせを邪魔するように、須美と夏希が自らの身体を寄せる。

細身ながらもブニブニと柔らかそうな、3人の少女の身体が複雑に絡まり合う。そして3人が3人とも、頬を赤く染め、艶と熟のこもった声を上げていた。
「ふあつ、んん……指、ダメ……ダメだよ……あつ、ふあつ」
「んつ、あつ……そんな、反撃してくるなんて……あつ、あああつ！ あつ！」
「んふう、ふあつ！ そこ、強くしちゃ……んふあつ！ あつ！ あつ！」
着ていた服ははだけ、その白く肌理細やかな肌の上を汗の粒が滑り落ちていく。うっすらと汗ばみ火照った身体と身体を擦れ合わせる少女たちの目は……完全に正気ではなかつた。
「んあつ、ああつ！ ら、らめえ、らめれすう……ふあつ、あああつ！」
もはやそれが誰の声なのかわからなくなつた状況の中、宴は続していく。
互いの身体を這いまわる白い指、一部が膨らみ敏感になった胸、柔らかそうな太ももをさらけ出すのを気にする様子もない。誰が誰の胸を揉み、太ももを触り、秘部をくすぐっているのか、距離を置いて見ている真姫奈ですらわからなくなつていて。
「ふあつ、ああ……いい、この指、気持ちいい……んつ、ああつ……」
「須美ちゃんの胸、凄く柔らかい……ふにふにしてる……んつふああつ！」
「……あつ、んふあつ！ んつ、んん……濡れてる……もっと濡らしてあげる……んつ、んふあつ」
「んふああつ、ああ……らめえ、んふあつ、あつ、はああつ！」
嬌声が上がり、身体を震わせる少女たち。自分が今どれほど淫らな姿をさらしているのかなど、思考の中にはないらしい。小振りながらも柔らかな胸が揉まれ、その中心にはビンと硬くなった桜色の乳首があらわになつていて。
瑞々しい太ももがヌチュヌチュと絡まり、その肌を滑るのは汗だけではなく、やけに粘り気を持った水が混ざつていて。3人はまるで乳首を擦り合わせるように、

流れ落ちる粘液を混ぜようとするかのように、激しく動き回る。
「んつ、あつ！ ふあつ、あああつ！ い、いい……気持ちいいです……んつ、ああつ！」
「ひやふう！ んつ、あつ、ああ……も、もつと、もつとお」
「んんつ、んふう、んつ、んああつ！ あああつ！」
粘り気のある水音が響き、嬌声がさらなる興奮を生み出していく。
そんな肉欲の時間を、3人……その後、復活した沙々羅を加えた4人が繰り広げることとなり、残つた1人は……
「うう、兄様……怖いよ、兄様……」
と、部屋の隅で脅え続けていた。

それからどれぐらいの時間が経過したのか、本人たちは覚えていない。ただ、気づけば全裸に近い状態で絡まり合っていたその状況に、何が起つたのかは簡単に予想できたらしく。「うつ、ううう……や、やっぱり、毒キノコだったんだ……」「でも美味しかつたです。また食べたいです」「……おかしい。鍋は万能なのに……煮込みが足りなかつた？」「違うっ！！ いくら煮込んだってダメなんはダメだつづの！」「まきな、キノコはこれから食べないことに決めたよ……」そんな感想を、各々が漏らしていた。

PUSH!!2008年9月号掲載



■ここにちは、むりりんです。
こぶいちさんと交互にコラムを
やらせていただきました。
好きな食べ物のことをつけづれと
語っていこうというアシでソレですので
よろしくお願ひします。

■毎日暑くてたまらないつーか夏より
冬派なのですがアイスがおいしいという
一點においては夏を認めてやっても
いいかなという気分です。
そして毎年はまってしまうバビコの罠。
うますぎるんですバビコ。
毎日のようく食べてしまう…！
半分は残しておこうと思うのに
いつの間にか全部食べてるとか
恐ろしすぎます。
いろんな味がありますが
ノーマルが一番おいしいと
思うんですよ？

■どうわけ部活帰りに
バビコ食べる娘さん
(水泳部員)。
脱いだう競泳水着焼けどか
じてるはす。
個人的にはスク水焼けよりも
えろいと思うんですがどうか。

■ここにちは、こぶいちです。
よろしくお願ひします。
好きな食べ物コラムという事で
せっかくタイトルに「団子」と
ついてる事ですし
みたらし団子について
語ってみたりしようかなという
気持ちです。

■みたらし団子は焦げ目のついてるのと
ついてないのがあります個人的には
焦げ目がついてるのが香ばしくて好き
です。好き好き言いつつみたらし発祥の地
京都のはまだ食べたことが
なかつたりするのですが。
個人的にオススメなのは喜八州総本舗の
みたらし。昔はハイト先に近かつたので
毎週のように食べてました。

■イラストは「みたらし食べる？」
なあんなのこです。
どうでもいいけどみたらし団子は
串もあるんだから
受け渡しがしにくいなあといつも
思う。

今回のテーマは 「ヤンの耳」です。

■どもです、むりりんです。
世間ではやっとござ涼しなってきたところでしょうか。
つってこれ描いてるのは夏更っ盛りなんですけど！
光暑いよなにやってんの！？

■まあそれはあいといいでこの耳です。
焼いて砂糖とかまなこがまほすと美味しいアレです。
トーストなら正直内側のみわふわしたところはないでいい。
耳オニギリをそもそもそもそも食べてない。
一斤の端っこ切り落としたところが美味しいです。
その上庵。豊富らしい食べ物でありますよ！



■イラストは姫姫な(ねこみみ)
(どういうか猫々)さん。
やっぱりコラム猫(ねこ)の耳
耳っ端を出さないわね！(ひき
耳)。

■しかし「ピコとかハジの耳とかを一所懸命
語ってるはどうかという気もしてきました。
まあいや、持って生まれた奇天舌を
説いて生きていこうと思います。

■ここにちはこぶいちです。今回はたこ焼きに
ついて語ってみたりしようと思います。
大阪では一家に一台たこ焼き器があるっていうのは
本当か、とよく他県の人間に聞かれますが、実際うちの
周りでは持ってるご家庭がとても多かったです。
半年に一回はたこ焼き祭みたいな感じで
たこ焼きを100個くらい作って、
「これが今日の晩御飯」みたいなことをやってました。



■さて今回のイラストはお嬢様が友達に誘われて
生まれて初めてたこ焼きに挑戦して
「ホホホ、美味しい」的なシチュエーション。
お祭のときとか学校帰りに食べるたこ焼きとかは
また格別ですねー